

四、五歳の子どもと絵本の扱い方

では、四、五歳の子どもを対象に、絵本を利用した指導例を考えてみましょう。

むかしとちがって、いまは、すばらしい絵本がたくさんあります。それも年齢に応じてくふうされ、編集されています。四、五歳用の絵本でしたら、かなのない、絵ばかりなのが、適当です。もし、かながあったら、はり紙をして、そのかなをかくしてください。

絵本の内容は、動物や植物、それにおもちゃ、家庭の生活を扱ったものなどが適当です。

この絵本に、1~2センチメートルぐらいの大きさの漢字を書いた紙をはりつけるのです。たとえば、犬の絵のあるページには、「犬」という漢字をはりつけるのです。

子どものふだん使っていることばや、おかあさんが子どもに対してよく使っていることばでしたら、どんなに複雑な漢字を書いてはりつけてもかまいません。

こうして漢字をはりつけておきますと、子どもは本を見るたびに、絵と字と関係のあることをひとりでも知ることができるようになり、絵を見れば字を、字を見れば絵を、反射的に思い出すようになります。つまり、「犬」という字が、犬そのものを表わし、また、「いぬ」ということばを表わすしるしであることを理解するのです。こうなれば、第一段階はりっぱに成功したことになります。